

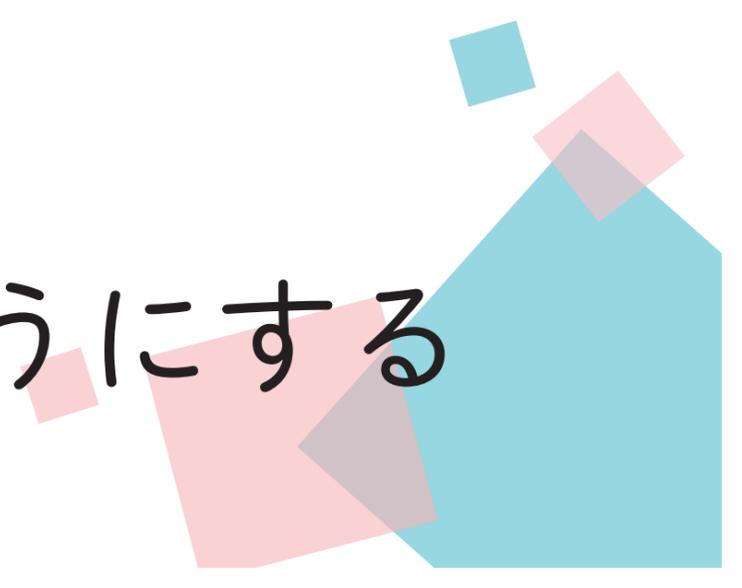
【はじめに】

当院では患者のほとんどが高齢であり、
様々な理由から介護の手が届きにくい
事例も多い

薬の管理が曖昧となり定期薬がきちんと
内服できない方が多かった

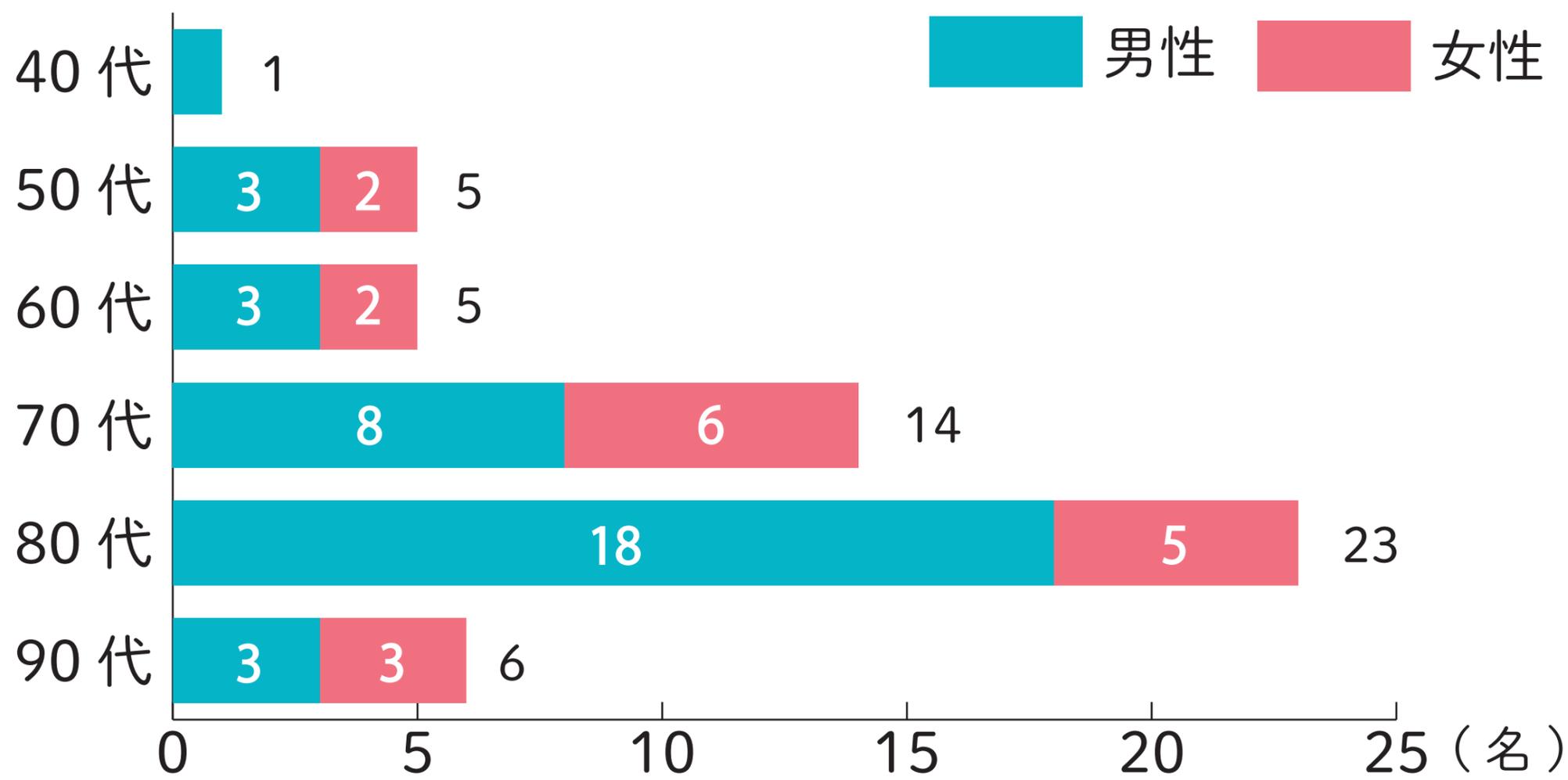
【目的】

定期薬管理と服用の実態を把握し、
必要な薬をきちんと内服できるようにする



○ 実態を把握する

当院の患者年齢層

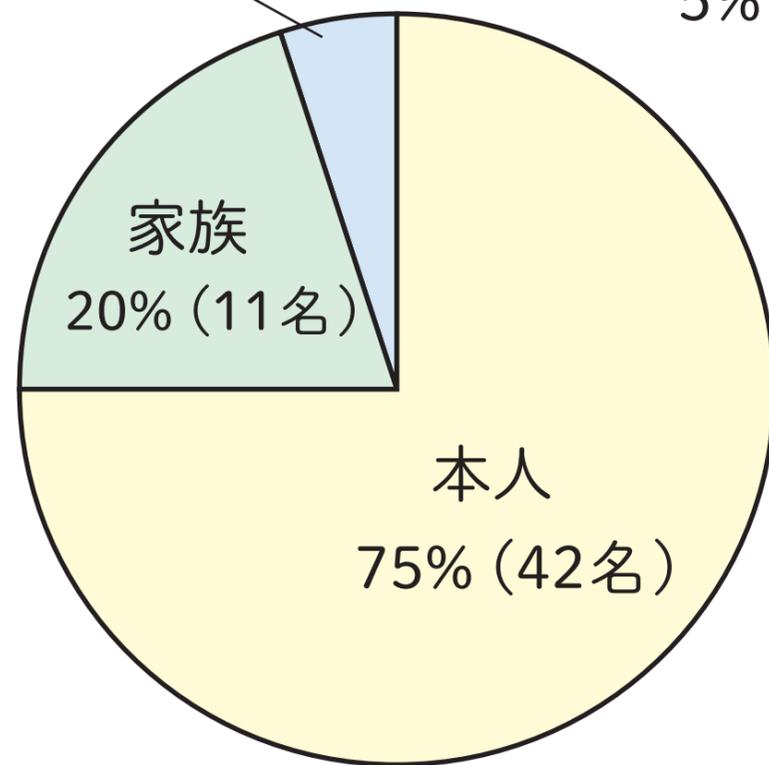


<アンケート調査>

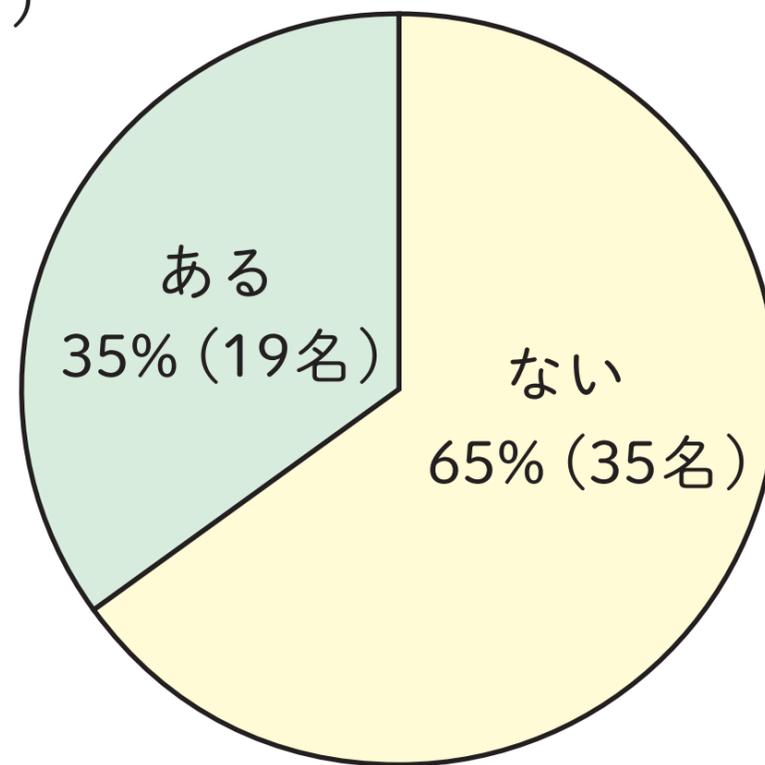
対象：当院在籍の透析患者 54 名

時期：2021 年 7 月 回収率：100%

その他（訪看、施設 NS、ヘルパー）
5% (3名)

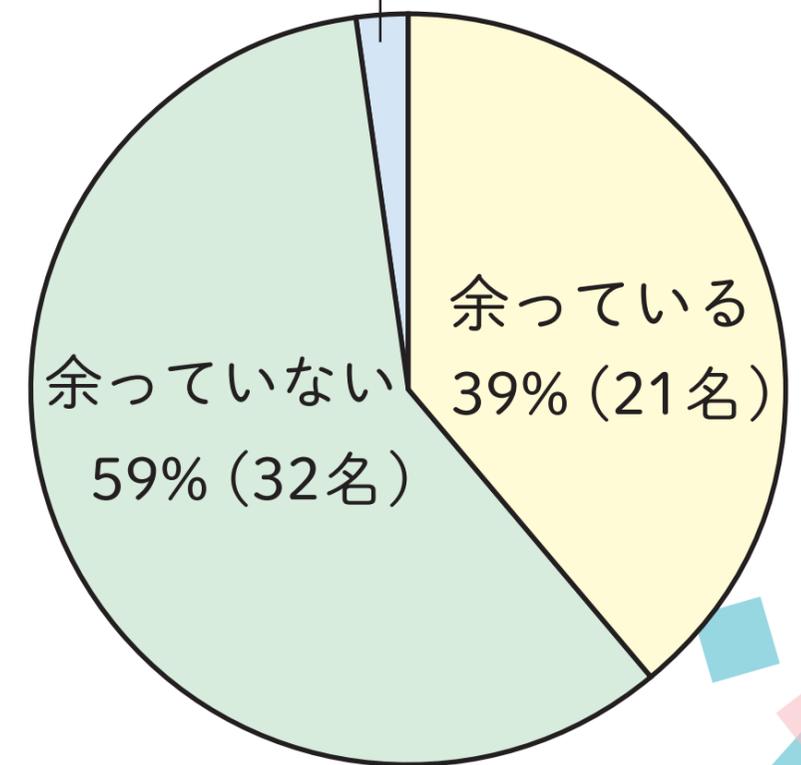


薬を管理している人



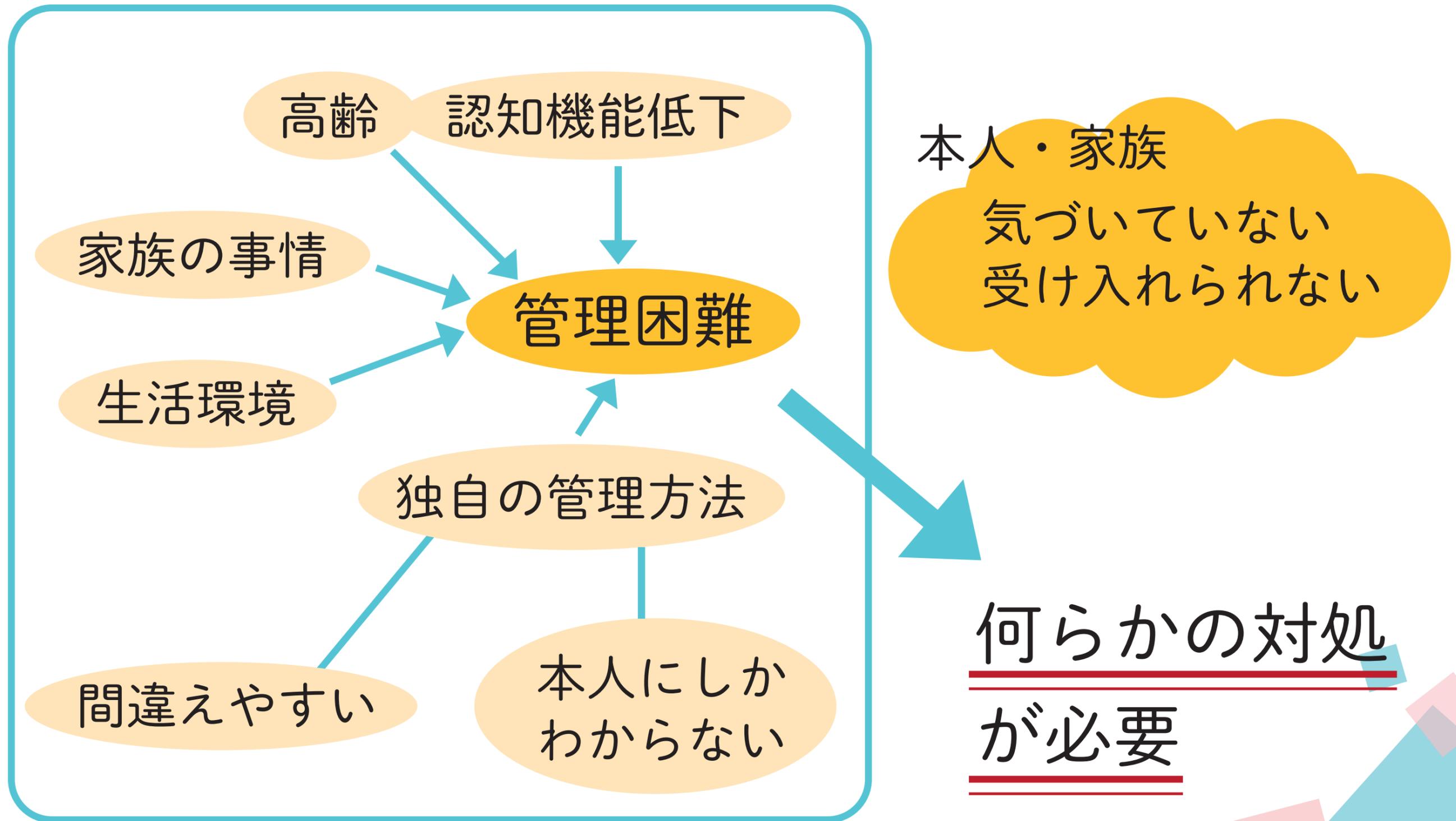
飲み忘れることがあるか

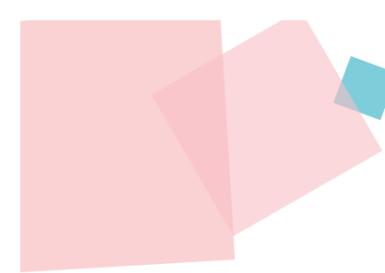
無回答 2% (1名)



手元に薬が余っているか

< 聞き取り > アンケートをもとに詳しく

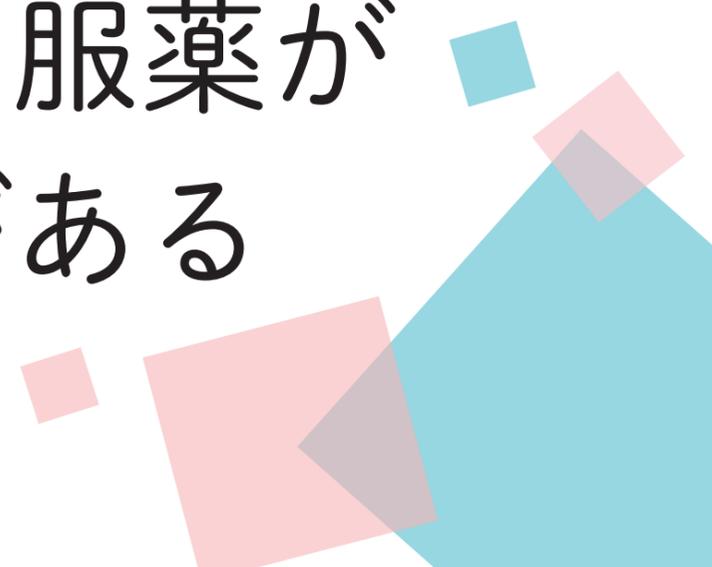


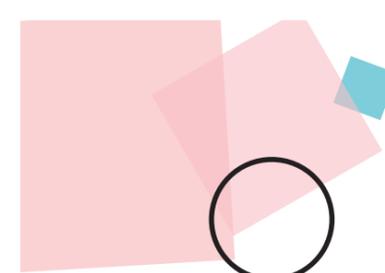


< 残薬回収 > 実際どれだけ飲めているか確認



実際は申告以上に服薬できていない!!!

- なぜ? ①服薬の必要性を理解できていない
②本人・家族による服薬管理が困難
③生活パターン等により、服薬が
抜けがちなタイミングがある
- 

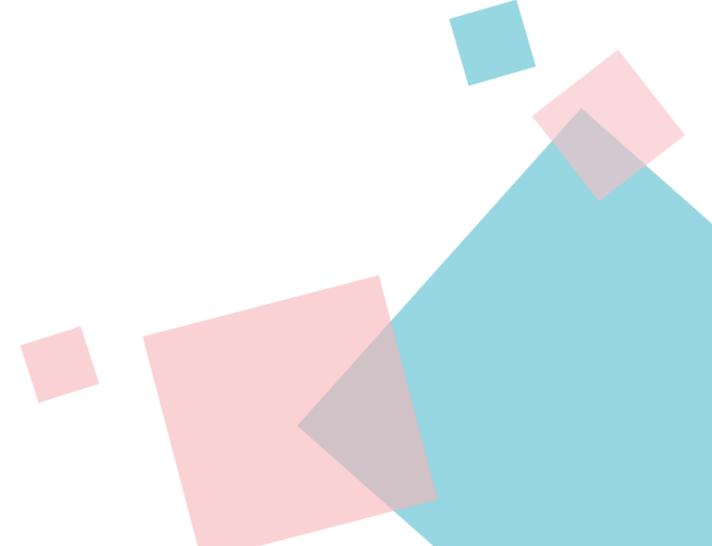


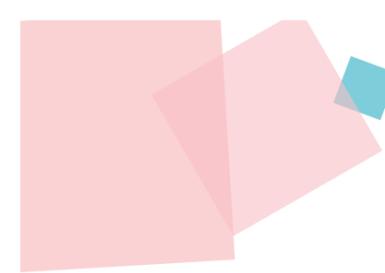
○ 対処する

① 服薬の必要性を理解し、関心を持つ

- ・ 必要性の説明
- ・ 定期的な声掛けと残薬回収、調整で服薬に対する意識を高める

②-1 管理方法を工夫する

- ・ お薬カレンダーやお薬 BOX の使用
 - ・ 提携薬局の利用を勧める
 - ・ 薬剤一包化の勧奨
- 

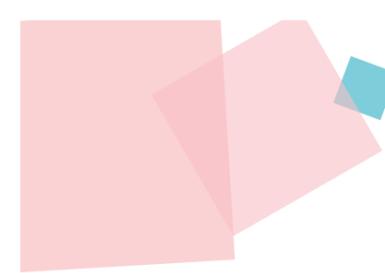
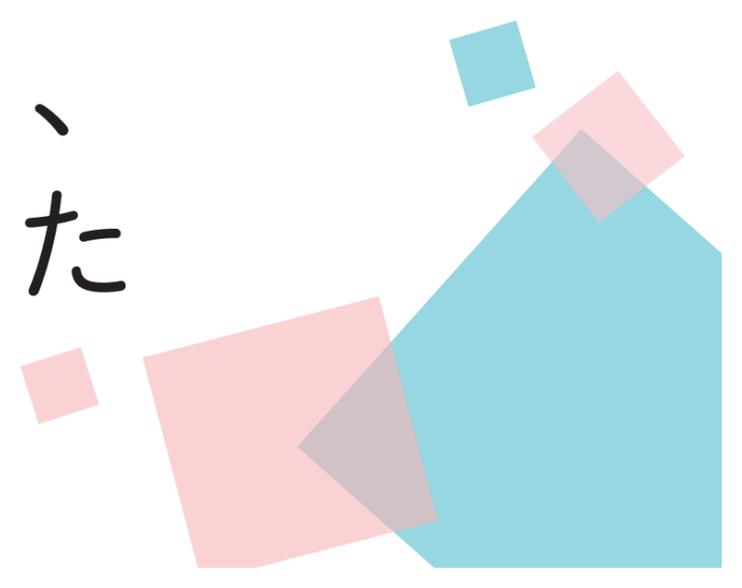


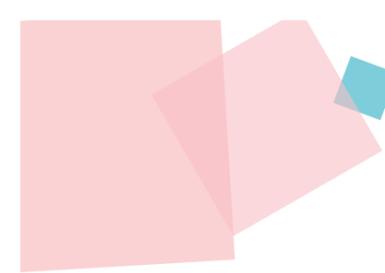
②- II 家族以外が管理する

- ・ 訪問看護や薬剤師の在宅訪問等
社会資源を活用
- ・ 透析室で預かり管理

③ 服薬しやすい処方工夫～医師に相談して

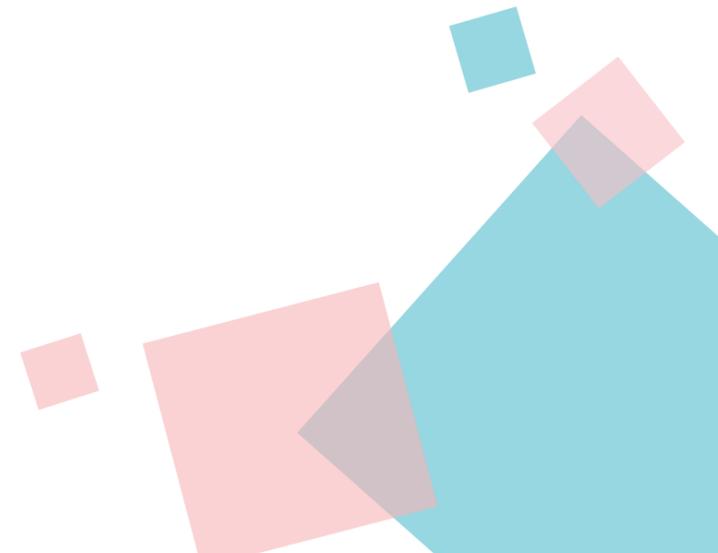
- ・ 処方内容の絞り込み
 - ・ 飲み忘れにくいタイミングに服薬を
まとめる
- 

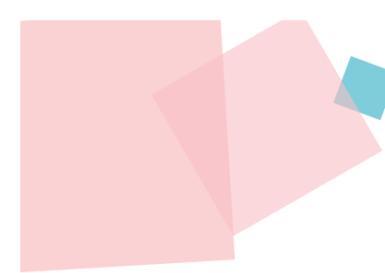
- 
- ★ 取り組みを続けることで意識が高まり、
残薬を持参する患者が増えた
 - ★ 訪看・ケアマネージャーとの連携、
薬剤師の訪問管理利用などで
在宅サイドとのパイプができ、
状況の改善に繋がった
 - ★ 処方時に残薬調整が可能となり、
薬剤の無駄をなくすことができた
- 



【結果】

定期薬管理と服用の実態を知ることで
患者個々の状況に合わせた支援が
できるようになり、内服忘れが減った

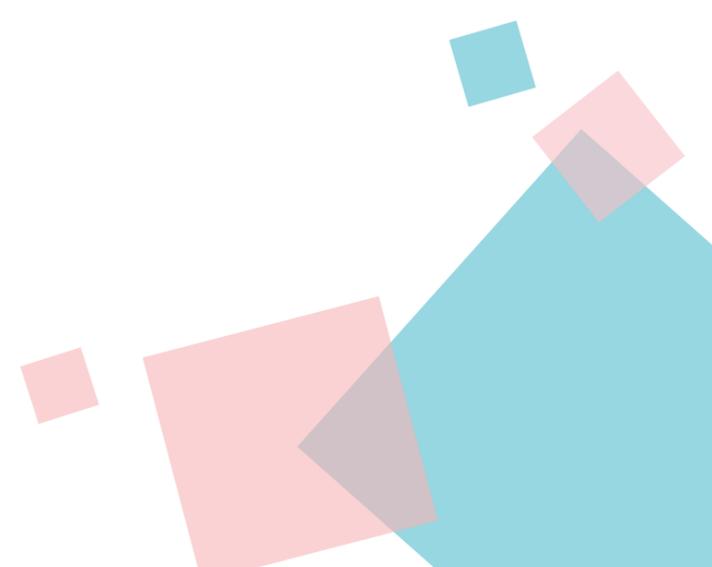




【まとめ】

今回多くの患者の定期薬管理状況を
改善することができた

最終的には本人や家族が服薬の必要性を
理解して、必要なサービスを利用しながら
管理できるようになることを目指して
介入を続けてゆく



日本透析医学会 COI 開示

筆頭発表者名：宮下 貴子

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある
企業などはありません。